

平成 27 年度

事業所名 : あお空グループホーム赤前

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200178		
法人名	有限会社 介護施設あお空		
事業所名	あお空グループホーム赤前		
所在地	〒020-0202 岩手県宮古市赤前第4地割83番地		
自己評価作成日	平成 28年 1月 14日	評価結果市町村受理日	平成28年5月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0390200178-00&PrefCd=03&VersionCd=02
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 28年 3月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個人のニーズにあった支援を心がけている。(昔からの習慣継続、馴染みの友人宅を訪ねる等)。季節を感じて頂けるように時間があればドライブに出掛け、外食の機会を設けている。利用者さんが作るおやつ作りは毎月実施している。近所の小学校、保育園とも交流があり、子供達とのふれ合いは入居者の楽しみの一つになっている。定期的にボランティアの慰問もお願いしており近所の方々と一緒に歌、踊りに参加し顔なじみになっている。地域密着型の施設として地域の方々とも交流を深め入居者が穏やかで安心した生活が送れるよう、職員全員で取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念の中で「真心を持って」「真心の輪が築かれるよう努める」としているように、職員同士で連携を図り、思いやりとぬくもりあるサービス支援を心がけている。地域にも着実に馴染んできており、保育園児との交流が年4回行われているほか、毎月避難訓練を実施している。近隣や地域の暖かい見守りのもとで、利用者は柔らかな表情でゆったりと落ち着いた日々を送っている。家族との絆を強める行事や地域高齢者との繋がりを深めるための敬老会の共催など、一層工夫しながら支援に取り組みたいとしており、事業所として持てる資源を生かし、地域の活性化に向けて一定の役割を担うことが期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会】

事業所名 : あお空グループホーム赤前

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングで理念唱和し、理念の再確認を実施し、利用者の立場に立って支援できているか、今、どんな支援が必要か考え実践につなげている。	真心の輪が築かれるよう笑顔、優しい気持ち、思いやり、地域密着など8つのキーワードを理念として掲げている。これら一つ一つを具体的なケアの場面でどのように実践しているか、ミーティング等で確認している。	開設5年を経過し、これまでの事業所運営を顧みながら、開設時に定めた理念について職員で自己評価してみることが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地区の行事参加継続、散歩時はこちら側からの挨拶を心がけている。慰問時はご近所の方と利用者とのデュエットもあり良い関係が築けている。馴染みの友人宅訪問することもあり、入所前地域住民との交流もある。	自治会が主催する防災訓練、祭り、親睦会などには積極的に参加しているほか、清掃活動にも加わっている。地元の保育園からは、園児が年4回遊戯、歌の披露に訪れている。散歩に出かける利用者もいる。	地域の行事などには積極的に参加している一方、事業所に地域の人を招く機会は少ないように見えるため、事業所に地域の人が立ち寄れる機会が増えることに期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、慰問、散歩の機会に職員の関わりをありのまま伝えている。入居者様が近所の方であり家族様には面会や運営推進会議を通して意見もいただきながら支援をおこなっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域行事の情報交換も出来ている。市職員、駐在所の方の参加により意見、提案等頂いている。サービス向上に活かしている。	ゲストに消防団や駐在さんを招き、防災や防犯など地域の情報をいただいている。推進会議で避難訓練に継続して取り組むべきとの提言が出され、毎月1回は訓練を実施するよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入所状況等毎月報告をしている。地域包括より、虐待と思われるケースの依頼があり、入所にむけて報告、連絡、相談を積極的にを行いサービスにつなげることができた	主として電話で制度や利用希望者などの情報交換を行っている。市の担当課、地域包括、駐在所と連携し、虐待状態にあった方を入居に繋げた事例もあり、協力関係は良好である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上19時～翌5時30分まで玄関施錠。身体拘束について職員は認識しているが、さらに、内部研修でも取り上げている。	身体拘束に関する内部研修は毎年行っており、職員は、身体拘束について認識を共有し十分な理解の上で、ケアに努めている。様々な資料を準備して事例研究を行い、職員の理解は深まっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員が利用者の状態把握に努め看護師からのアドバイスもあり、それらを申し送り、ミーティングで情報共有し支援につなげている。職員間での意見交換、情報共有できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の担当者は2ヶ月に1回来所され、お互いの報告を行っている。入居者様の状態も把握でき安心しておられるようです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、疑問、質問があればその都度説明を行い、理解、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時には普段の様子を報告し、意見や要望等も頂けるよう努めている。運営推進会議の参加や外部評価のアンケートは参考になっている。遠方の家族さんからは広報「まごころ便」の感想や意見を頂くこともある。	食事や買い物、外出など利用者の要望に応じている。定期的に来所する家族からは要望などを確認している。また、2か月毎に、利用者の日々の生活の様子や写真などを掲載した「まごころ便」を家族に送付し、感想や意見等をいただくようお願いしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで意見、提案、要望等を検討し共有している。	カンファレンスを行う際に、ミーティングも行い、利用者の状況、事業所の運営について意見を交わしている。日々のケアの中で気づいたことは申し送りノートに書くなどして、意見や提案を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務実績等を把握した上での給与水準への反映や資格取得の助成、資格合格者への祝い金等を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者の判断の元に受講希望のある研修への参加の機会を与えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会企画のイベントを通して同業者との交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人は連れてこられた感が強く自分からは要望を言う事は少ない。家族、関係者からの情報をもとに本人の気持ちを聴き、出来るだけ本人の生活に合わせることで少しでも不安を解消できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームの役割を理解して頂き、困りごとや不安、要望等をできるだけ受け入れてサービスにつなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の情報を共有し、職員は連携をとりながら支援をおこなっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事を職員、他入居者様と一緒にやる。裁縫が得意な方には洋服の修繕、料理が好きな方には調理の手伝いをしてもらうなど過去の職歴、生活歴を参考にし入居者様個々に役割を持ってもらうようにしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	、状態の変化、気付いたことを常に家族様に報告、連絡、相談できる関係を築くよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方が実家に連れて行った際、兄弟、近所の方に逢わせたり職員がドライブなどの外出時、できる限り個々にかかわりのある場所を通り近くなったら声をかける等意識させるよう努めている。	利用者と会話を重ね、思い出の場所などを聴いて、ドライブで廻るようにしている。また家族には、帰宅した時は馴染みの人に会う機会をつくってもらおう、また友人、知人の方に来所を誘ってもらおうようお願いしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格、生活歴を把握し得意な手伝いを入居者同士と一緒にしたり、レク内容を考慮し、場合によっては分割するなど楽しく活動できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後、時々、本人と家族さんが来所される時がある。家族さんから相談等はないが、必要時、できることは行うよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの習慣に添うよう努めている。個別のおやつをきらされない入居者様のお菓子類や仏様供養の買い物等には、職員と一緒に出掛け自分で選び購入している。	日々のかかわりの中で、本人から聞いたやりたいことなどを申し送りノートに記入するなど、意向の把握に努めている。また、家族からも電話等のやりとりの中で話を聞くなどして対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、介護サービス関係者からできるだけ情報を得る様努めている。普段の会話からも得ることが多々あり職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズム、習慣を把握し心身状態の変化は職員全員で共有し支援に努めている。必要に応じて家族に連絡、報告を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者さんの心身の状態変化は、カンファレンスで検討している。必要時、見直しを行いケアを行っている。本人、家族、医療関係者等の意見も反映し、現状にあった介護計画になるよう取り組んでいる。	毎月のモニタリングを経て3か月毎に職員全員でカンファレンスを行い、現状と計画に齟齬がないか確認している。見直しが必要な場合は、家族と話し合い、あるいは担当医などの意見を反映させ計画を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様、業務に関することはどんなことでも申し送りノートに記入し共有を図っている。課題については定期的に行っているカンファレンスと必要時に行うカンファレンスで検討、支援内容の見直しにも活かしている。。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	友人宅に訪問したり、以前住んでいた近くドライブに行っている。家族の協力のもと月1回の外食や、仏様の供養のあげものや本人希望で正月用品の購入も行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域広報等で行事を把握し、参加出来そうな行事には可能な限り参加。施設で慰問がある時は近隣の方々に案内をして互いに交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の状態に合わせ受診し、定期受診は職員が同行し、普段の様子や健康状態を伝えている。	かかりつけ医は、入居前からの病院で受診しており、職員が同行している。受診結果は、後日家族に報告している。また、法人には看護師がおり、週に1回事業所に訪問しメディカルチェックを行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師には、入居者様の健康状態、受診結果を報告書と口頭で伝え処置や注意事項の指示を受け支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はグループホームからの情報提供を行い、入院中や退院時は相談員や関係者との情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には看取り指針についての同意を得ている。本人、家族様からは要望等はないが、看取り研修に参加したり、看取りを行った事業所から情報を頂いたりしている。2月は内部研修として看取りについて行う予定である。	家族に看取り指針を説明し、重度化したり、看取りが必要になった際の対応について予め理解を得ている。昨年、最終的には病院に搬送したが、看取りに近い経験をした。看取り実践の報告書などを参考に職員で勉強しているが、未経験の職員も多く、継続的に研修に取り組みたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変、事故発生時に備え消防士より訓練を受ける機会をつくっている。場合によっては救急車を要請する時もある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回の避難訓練実施。津波避難時は、近隣の保育園や個人宅に避難の協力をお願いしている。注意報でも保育園に避難している。夜間帯の火災訓練では、職員全員がシュミレーションを変え訓練をこなしている。	春秋の定期火災避難訓練のほか、毎月独自に津波や火災など様々な災害を想定した訓練を行っている。津波警報発令では、高台の保育園まで車で走ることになっている。利用者は反応が早くなってきている。近隣の参加協力は得られてないが、事前のお知らせなどで理解はいただいている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴、排泄支援では女性職員のみ対応の入居様もあり、その方に添った支援を行っている。職員は言葉使いに注意し、命令口調での声掛けはしない様気をつけている。	年長者として利用者の尊厳に配慮しながら、言葉遣い、呼び方をするよう対応しており、信頼関係を築いている。入浴の介助、排泄支援なども本人の誇りを傷つけないよう気を配っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	信頼関係のもと、入居者様から申し出があれば、出来る限り実現に向けて職員間で話し合いを行っている。日常生活では、本人に確認することを重視している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	普段から、入居様の話し方や表情に目配りし、必要時は個別対応をおこなっている。活動や外出の際、気がすすまない時は、本人の意思にまかせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	寒さ、暑さの衣類調整やほころびを縫ったり、ボタン付け等の支援を行っている。外出時には場所や季節に合った物を入所者様と決めることもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月2回のおやつ作り、行事食等を職員と一緒に分担しながらつくっている。花見や紅葉の時期の外食は、入居者様の楽しみのひとつになっている	副食類は外注だが、手作りの品を加えたり、味噌汁の具を工夫したり、野菜、果物を添えたり、飽きのこないよう配慮している。おやつ作りや行事食の時は皆で協力し合い、楽しみながら準備している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外注がメインの為、量や栄養のバランスはとれている。メニューにこだわらず旬の食材を使ったり、希望のメニューを提供している。個々に合わせ量やきざみ等で食べやすくしている。夜間の水分は居室においてある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	磨き残し確認や舌ケアの必要な方には職員が声掛けにて支援している。入れ歯消毒は毎日行い、コップ、歯ブラシ消毒も定期的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入院中はオムツ使用であったが、つかまり立ちができることから日中はトイレ、夜間はポータブルトイレで排泄ができています。失禁が見られる方は声掛け支援。失禁があればパット交換の促しを行っています。	排泄チェック表で、個別に排泄のパターンを把握している。夜間はポータブルトイレ使用の方もいるが、声掛けによりトイレまで行ける人が多く、個別に応じて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、乳製品を摂取、運動もほぼ毎日行っている。下剤服用している場合、3日をめどに1錠増やすこともある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	洗髪や背中洗いの手伝いを行い、その他は個々のやり方で見守りを行っている。立位が不安定な方は2人介助で入浴実施。	2日おきに3人ずつの入浴を基本にしているが、入浴が習慣化し、拒否したり時間変更を希望する利用者はおらず、リラックスした雰囲気の入浴できるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前中は主に活動を行う。午後に昼寝をされる方以外は職員と話しをしたりテレビを観るなどくつろいで過ごされている。夜間帯は、排泄以外はぐっすり休まれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診結果記録し、内服等変更あれば申し送ることで確認できている。内服確認の為、薬剤師から指示や情報を得ることもある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出、おしゃべり、買い物、慰問(唄や踊り)、食事、ゲーム、交流等を行い、入居者様が孤立しないよう支援している。家事にも参加していただき意欲向上につなげている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ、食事会、買い物に出かけたり、家族さんの協力のもと1~2ヶ月に1回、お鮎を食べに行く入居者様もいる。定期的に気持ち沈むことがある方であったが、現在は落ち着いて過ごされている。	外出が好きな利用者が多いため、外食や買い物など、積極的に外出支援に取り組んでいる。家族の車でドライブにでかける利用者もいる。天気が良い日は近所を散歩することもある。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金で購入の際は、本人、家族への報告を行なっている。預かり金の他、自分で管理をしている入居者様もおり(お金を持っていないと不安)自己管理されている。家族様にも了承を得ている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話のやり取りができるよう支援をおこなっている。携帯を持っている方には、使い方の説明を行って自由にやりとりできている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内では季節や行事に合わせ塗り絵や飾り物等を手作りし飾っている。ホールと厨房はカウンターで仕切りがあり、調理やご飯の炊ける臭いで時間を感じることができる。洗濯物は、乾燥予防の為、ホール内に干しており家庭の雰囲気になくなっている。	台所から、食堂、各居室すべてが見渡せるようになっている。照明は明るすぎず、ほどよい明るさで全体的に木のぬくもりを感じられる雰囲気がある。トイレは2箇所あり、その内1箇所は車いす対応となっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはテレビ2台が置いてあり、それぞれの場所で過ごされている。どちらも自由にくつろぐことができ、職員を交えての楽しい団らんの様子が見られる。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真やテレビを置いている。お位牌に毎日お茶をあげている入居様もいる。家族さんが花を持参された方には、水やりをお願いしている。他者を居室に招いてのおしゃべりで楽しい時間を過ごしている。	各居室には、エアコン、クローゼット、ベッドが備え付けられており、テレビは各自持ち込むことができる。自分が居心地よく暮らせるよう、写真や絵を飾ったりしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	広いホールで車椅子の自走ができている。職員は、見守り・一部介助で支援している。本人意向の「歩きたい」にむけて、手すりに掴まり屈伸運動を行ったり、ホールで歩行練習を行っている入居者様もいる。			